

南アルプス市立豊小学校自己評価書

令和8年1月23日(金)

1 自己評価の経過

- (1) 前期教職員自己評価・児童対象アンケート実施(7月)
- (2) 前期自己評価及びアンケート結果を基にした職員会議にて状況分析と改善方策の検討(8月)
- (3) 後期教職員自己評価・児童対象アンケート及び保護者アンケート実施(12月)
- (4) 自己評価及びアンケート結果を基にした職員会議にて状況分析と改善方策の検討(1月16日)
- (5) 学校関係者評価委員による自己評価書の検討(1月23日)

2 学校評価の分析と改善方策

〔1〕評価基準

全体傾向を把握するため、4・【A】評価、3・【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状態』と判断した。また、2・【C】評価、1・【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は、『改善の余地がある状態』と判断した。

〔2〕全体的な傾向

上記の評価基準からすると、26項目全ての項目で【A】【B】評価の合計が80%以上になっている。また、評価の平均値を前期と比較すると全項目0.3以上の変化が見られず、ほぼ等しい値であった。否定的評価に目を向けると、8項目において【C】【D】評価の回答があった。これは前期の6項目に比べ増えている。これらを総合的に判断すると、前期とほぼ同じ状況を維持しているが、改善の余地ありとすることができる。

〔3〕結果の考察

【学校経営・学校運営への参画】(項目①～⑦)に関わって

7項目全てにおいて、肯定的評価が90%を超えている。【A】評価に目を向けると4項目で上昇がみられる。平均値においても5項目で前期より上昇している。この結果から、教職員全員が一丸となって学校教育目標の実現に向かって学校運営に参画している状態と言えるであろう。項目別にみると「④あなたは危機管理(防犯・防災・事故等)マニュアルを理解し、指導していますか」「⑥あなたは校内研に主体的に関わっていますか」の【A】評価が40%台で低い。危機管理については今年度例年の避難訓練に不審者対応の防犯訓練を行ったが、どんなに訓練をしても実際の場面で動けるかという心配がある。避難訓練は繰り返し行い実際の場面で動くことができるようにしていきたい。校内研究は【A】評価が低いものの平均値では上昇している。今年度は中北教育事務所管内小学校初任者研修実習校の指定を受けており、各ブロックで研究授業を行った。人数の関係で会場に全員が入ることができなかったが、研究主任を中心に情報共有を行い教職員全体の学びとなった。例年とは異なる研究内容であったが教職員が団結し実りある成果を出せたといえる。研究に関わる立場の違いから【A】評価は低めだが、平均値の上昇はこの成果から見られたのではないかと思われる。

【学習指導】(項目⑧～⑬)に関わって

6項目全てにおいて肯定的評価が90%を超えている。【A】評価に目を向けると「⑨あなたは、児童・

生徒が積極的に読書活動に取り組むよう指導しているか」を除いて全ての項目で過半数を超えている。また、全ての項目において、平均値は全項目において昨年度より上昇した前期に比べ2項目が下降したが0.3に満たず有意差は認められない。この結果からICTの活用、めあての提示、言語活動の実践、評価という“山梨スタンダード”を意識した一連の授業展開を念頭に置いた実践が定着しているといえる。読書活動については2学期読書まつりを通して読書活動を推進する取組を行った。今後も読書のよさ、おもしろさを伝える活動を進めていきたい。また、「⑬授業と有機的に結びついている家庭学習をさせているか」は【A】評価が50%であった。意見にあるように、させてはいるが個別対応の必要性を感じている教職員が多いと予想される。家庭学習については児童の状況を考慮しつつ指導と家庭学習の好循環を目指したい。

【生徒指導・生活指導】（項目⑭～⑱）に関わって

5項目とも肯定的評価が100%であった。普段から教職員が児童理解、生徒指導、いじめなどの早期発見に向けて高い意識で取り組んでいることがわかる結果である。これからも研究・研修を充実させたり、ケース会議などを充実させたり、定期的に行っている、「いじめ対策委員会」や「特別支援校内委員会」を有機的に機能させたりして、児童の様々な課題について、チーム豊として全職員で指導支援していけるよう努めていきたい。

一方で、平均値に目を向けると5項目中4項目で下降が見られる。特に「⑯あなたは生徒の規範意識や道徳性を育む指導に取り組んでいますか。」「⑰あなたは児童生徒が進んであいさつするよう指導していますか。」の2項目は0.21下降しており、今回のアンケートでは特に下降率の大きい2項目となった。あいさつについては意見の中にも「児童が進んであいさつしているようには思えない。」「あいさつを返さない」「日常のあいさつができるようにしたい」という意見が挙げられていた。道徳教育もあいさつも社会で生きるために不可欠な土台である。全教職員が足並みを揃え、一貫性のある指導・支援を行っていきたい。

【保護者・地域との連携】（項目⑲⑳）に関わって

「⑲おたよりやホームページを通して保護者や地域に広報している」は100%の肯定的評価、「⑳地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている」は91%の肯定的評価であった。しかしながら、㉑は【C】評価の回答も見られた項目である。今年度は昨年度に比べ講師として地域人材を招聘し学習を深める時間が増えたり、学校ボランティアの募集により児童の校外学習に地域の方に同行していただいたり昨年以上の地域人材の活用が見られた。しかし、地域人材の活用が一部の学年に集中し、全体に広がっていない現実もある。今後、さらにこの活動を広げ、地域と一体の豊小教育を進めていきたい。

【小中一貫教育】（項目㉑～㉓）に関わって

令和4年度に楡形地区の小中学校5校は“楡形中学校区小中一貫校”として新たなスタートをした。それぞれの学校が特色を生かしながらも一貫校として共通の理解を図りながら、児童生徒を育成することをねらいとしている。そのために共通項目を設けている。

3項目とも、肯定的評価は90%を超えていた。学習指導の項目で“山梨スタンダード”を意識した一連の授業展開を念頭に置いた実践が定着してきたと挙げたが、それと同様に、楡形地区小中一貫校

としての取組を教職員が理解し、活動が定着してきたということが言える。これら大きな指針が日々の授業改善を支える確かな基盤となっている。これからも小中一貫校としての活動を通して主体的・対話的に学ぶ児童の育成を進めていきたい。

【その他】(項目②④⑤⑥)に関わって

「②民主的で規律ある学級集団づくり」「④諸表簿や文書、記録媒体の管理」については肯定的評価が100%であった。規律については学校全体で再確認し、共通理解のもと児童に認識させ、児童の主体的な判断と自己規律を促す指導を構築したい。諸表簿等文書管理については管理方法を厳守し、紛失等のない確実な管理を徹底していく。

「⑥働き方改革を意識して、積極的に業務改善に取り組んでいる」については【A】評価は昨年の68%から前期55%、さらに今回50%に下降した。今後更に業務全体を見直し、削減、内容の見直し等業務改善を行ったり、教職員一人一人が自らの働き方を見直した、より良い働き方ができるよう意識を高めていくようにしたりしていきたい。